令和元年度補正ものづくり･商業･サービス生産性向上促進補助金

締切回　令和元年度 第3次　｜　業　種　提灯製造業

事業計画名

高耐久性紙提灯の自動折機導入による野外でも使用可能な安価な紙提灯の開発

株式会社 宇佐ランタン

本事業で導入した自動折機。自動的にセットされた提灯はジャバラ状に折りたたまれていく

ビニール製と紙製、両方のメリットを持つ高耐久性加工紙で作られた提灯

折りたたみ加工を終えた高耐久性加工紙製提灯

飲食店から神社仏閣、イベントまで使われる同社の提灯

障がい者も健常者も働きやすい環境となっている工場

谷川 実 代表取締役社長

1 profile 企業情報

会社名	株式会社 宇佐ランタン
代表者	代表取締役社長　谷川 実
所在地	〒879-1134 大分県宇佐市橋津29-4 TEL.0978-37-1584　FAX.0978-37-1582
事業内容	ビニール製提灯の製造･販売
資本金	1,000万円
設立	1973年11月
社員数	19名

2 background 背景・経緯

ビニール製提灯トップメーカーとしての存在感

日本の伝統工芸ともいえる提灯は、古くからお祭りや儀式、飲食店の装飾等に使われてきた。もともと中国から伝来してきた提灯だが、当初は竹ひごが縦組みだったため折りたためなかったが、これを横組みにすることで伸縮自在になり、汎用性が広がったという経緯がある。かつてはロウソクだった光源も、現在は火災防止のため電球が主流となっており、筒状の周囲に和紙を張って明かりを灯していた。その後、雨に濡れても壊れない丈夫な提灯へのニーズが高まり、風雨に強いビニール製提灯が開発され、屋外使用の用途では主流になっている。

宇佐市の株式会社宇佐ランタンは、ビニール製提灯の工場を持つ製造メーカー。地道な営業努力が実り、ビニール製提灯ではトップシェアにまで上り詰めている。同社が扱う提灯の形状や大きさは様々で、取り扱い品目は24種も揃えている。また通常の提灯製造は手作業で作るケースが多いが、その生産量は1日数十個程度。しかし同社工場は、1日約500個の生産能力による大量受注や短納期対応も可能である。安価な中国製のビニール製提灯と価格競争力では劣るが、受注から製造、納品までのワンストップ体制が大きな強みとなっている。

なお、宇佐ランタンは障がい者雇用においても先進企業として知られている。彼らが働きやすい環境を整えるため、これまで同社は「自動ヒゴ巻き機」「アルミ製型枠」といった製造機械を大分大学等と共同開発している。

3 details 事業内容

独自開発製品の量産体制に向けた新規設備を導入

今回のものづくり補助金は、同社が開発した特許製品の高耐久性加工紙を使用した提灯の自動折り機の製作資金に活用した。

高耐久性加工紙は、風雨に耐える強度を持っていながら、ビニール製提灯では演出しにくい和紙のような風合いが醸し出せる革新的素材である。これまでとは違った表現を望むユーザーに向けて、新たな取引先開拓に繋げていく可能性が開けた。

しかしその一方で、本製品は出荷する際の折り畳み加工に困難を要し、ひとつひとつ手作業で行うしかないという欠点があった。これでは大量生産に応じられないため、独自の折り機を製造開発するに至ったもの。

約3年の期間をかけて完成した専用の自動折り機は、提灯を機械に通すだけで紙を傷つけることなくジャバラ状に折り畳む仕組みとなっている。提灯の形状やサイズに応じて自在に調整でき、操作性も優れており、多数の受注に耐えうる仕様となっている。

4 achievement 成　果

製品出荷数は順調に推移し、ユーザーからも高評価

新しく導入した自動折り機の稼働開始以降、高耐久性加工紙を使った提灯の受注は増加の一途を辿っている。

これまでは受注数が限られていたため思うような営業ができず、年間でわずか30個程度しか出荷できなかったが、2021年5月導入から決算月の9月までの出荷数は約300個を数えた。さらに翌年4月までの7ヶ月感の出荷数は約700個と、順調な勢いで出荷数を伸ばしている。いずれもコロナ禍による厳しい行動制限が行われている時期であったが、制限解除後はさらなる需要が期待できそうだ。

もちろん同社の主力製品が、使い勝手のいいビニール製提灯であることは変わりない。しかし本製品は飲食業の店頭や商業施設、神社仏閣といった取引先を中心に人気を高めており、紙製品ならではの趣きのある風情が表現できる点が評価されているようだ。また、素材を活かしたデザインの拡がりも期待できそうである。

5 future 展　望

メーカーとして新たな挑戦を

宇佐ランタンでは、高耐久性加工紙を使った提灯の取り扱い量を、10年にわたる長期スパンで増やしていく計画を立てており、いずれは多岐にわたる用途の提灯を扱う総合メーカーを目指しているという。現時点で自動折り機の操作は健常者が行っているが、時期を見て障がい者も操作できる体制を整え、万全な製造体制を実現化させる意向だ。

高耐久性加工紙製の提灯が新たな市場開拓のキラーコンテンツとなる可能性は、おおいにあり得る。

Point

新規導入設備が製造体制をバックアップ。
ビニール製提灯のトップメーカーが
独自開発製品を携え新たな挑戦を仕掛ける。